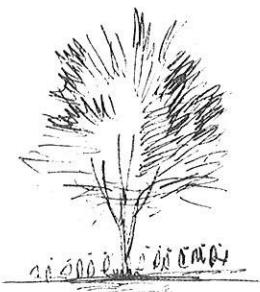


ひかりのこ

# 光の子



No. 71 1997. 3. 1.

● 主の名によって語り行え（コロサイの信徒への手紙第3章17節）



「お花の中で」

え・中島英子

「春」

音信のふたたびあらず終ひ雪

貝寄風やひとりはなれて恋の子は

雨雪大きくなりし梅の花

早蕨の絮がちの青かすかなり

利休忌の音をひそめし椿山

白妙の衣に恋の春ありし

蛤や前にひろげし海の色

伊藤 通明  
（『白桃』主宰）

発行／社会福祉法人 光の子どもの家  
編集／光の子 編集委員会

T E L / 0480-72-3883  
〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277

振替／00130-1-128022  
印刷／社会福祉法人 共愛会

言われてみると、まさに岡星である。私も一緒に大笑いしてしまったが、同時に、これは反省しなければならないと改めて思ったものである。常々私は家内から言われていたことがある。「宴会なんかの時にガツガツしているのは、あまり格好の良いものじゃないですよ。若い人見ていて頼もしい感じはするけど、オジサンじやあね。何だかみすぼらしくつて。だから、前もって何か食べておけば? バナナ一本ぐらい。」私もその通りだと思う。だが、私

トップリはやや少な目に取り、着は二皿ぐらい。ゆつくりと、ていねいに食べ、おいしそうに飲んでいる。そして完全にその場に落ち着いて座っている。いろいろな地方のおいしい食べ物を、体験を通して知っているものだからその食べ物にまつわる話などをしながら、ゆつくりと楽しそうにのみ、食べ、かつ雑談をしている。そして、料理や酒の注文も、あれこれ迷うことなく、ピタッとしている。こう見てくると、Aさんはやはり、落ち着いた大人の感じがするのである。

それに引きかえ私は、どうもこうはいかない。ゆつたりと落ち着き払つて食事をするというのが出来ないのである。

飢えの記憶

「ああ。」と言われた事がある。  
彫刻をやつている仲間たちと、何かの会合があり、終わってから夕食をとつた後、帰り道ラーメン屋の前を通りかかった時である。私は「ラーメンを食べていこうよ。」と、みんなを誘った。みんな満腹だったと見えて「もう良いよ、充分だから帰ろう。」という多数の意見を押しのけて、無理矢理つき合わせたものだから、みんな呆れて大笑いになり「食い意地が張つてゐなあ。」となつたのである。

ちつとも思っていない。ただ少々食べる事に熱心であるだけなのである。

例の仲間たちとの五・六人での食事の時を思い返してみると、と言つても、他の人たちがどのような食べ方飲み方をしているか、私には殆ど関心がないのだが。でも、多少は思ひ当たるふしはあるにはある。

例えばAさん。

トックリはやや少な目に取り、看は二皿ぐらい。ゆっくりと、ていねいに食べ、おいしそうに飲んでいる。そして完全にその場に落ち着いて座つ

私は一度実験してみた。宴会の席で次の事を実行したのである。食べ過ぎない、飲み過ぎない、喋り過ぎない、ふざけ過ぎないの四つである。

まず、飲み物は黄色いジュースだけにする。人が酒やビールをすすめにしても「いや、今日はこれですから」とジュースを指さす。食べることに関しては、さしみを三・四切れだけ食べ、後は全部箸をつければ残してしまう。隣同士で少し雑談をして、もち論絶対にふざけない。そして、少し早めに会場から引き上げてしまつた。私は、自分の強い意志を貫き通して、この実験は成功した。あの会場では決して食い意地も

そこまでは実に予定通りであった  
しかし、家に帰つてからは、例によつて満腹になるまで大食いをし、眠くなつてしまつたのである。

そして、寝ながら大反省。  
やはり私は食い意地が張つているのだろうか、ガツガツしてゐるのだろうか。品がないのではなかろうか。食べるということは、飲むということは、何と難しい事なんだろう。

原因は何なのだろう。いや原因なんてない。そんな体質なのか。しかし、いろいろと考えた末に、やはりこれは「少年時代の飢えの記憶がそうさせるのだ。」と結論づけてみたのであつた。

県立高校美術教諭 中島 瞳雄

張つていなかつたし、ガツガツもしていなかつた筈である。しかし、実験は大成功に終わつたものの、実につまらなかつたのである。大勢の人々のなかで、しかも宴会で、飲まない、食べない、喋らない、ふざけないでは、全くおもしろくもおかしくもないるのである。私は、前もつて自分がだけで注文しておいた寿司を受け取つて、楽しそうな宴会のにぎわいを後にして家に帰つて來た。

そこまでは實に予定通りであつた。しかし、家に帰つてからは、例によつて満腹になるまで大食いをし、眠く

なつてしまつたのである。  
そして、寝ながら大反省。  
やはり私は食い意地が張つている  
のだろうか、ガツガツしているのだ  
ろうか。品がないのではなかろうか。  
食べるということは、飲むということ  
とは、何と難しい事なんだろう。  
原因は何なのだろう。いや原因な  
んてない。そんな体質なのか。しか  
し、いろいろと考えた末に、やはり  
これは「少年時代の飢えの記憶がそ  
うさせるのだ。」と結論づけてみた  
のであつた。

新天新地

ヨハネの默示録第二十一章

理事長 福島 勲

「おかしなことに人間というやつは、とことんまで落ちるように出来ているのだ」と、ギリシャの悲劇詩人アイスキュロスは慨嘆している。人類は殺人犯カインの末裔である。情報網が発達し、世界中の出来事が即刻に知らされるが、どう見ても今日の世界はまさにカオス（混沌）の状態である。

かつてシンキビッチの小説「クオ・ヴァディス」を読んで、紀元六十四年のローマの大火が皇帝ネロの仕業であると知らされた。

かつてシンキビッチの小説「クオ・ヴァディス」を読んで、紀元六十四年のローマの大火が皇帝ネロの仕業であると知られた。

ネロはホメロスの作品のなかにあるトロイの大火を再現して、これを眺めて詩を詠んだ。そして大火をキリスト教徒の仕業に転嫁し、キリスト教の迫害をした。ペテロもパウロも恐らく六十四年には殉教の死を遂げたのである。

ローマ初期の歴史家タキトゥスはこの火事が偶然だったか、ネロの犯行かは判然としないと書いている。

P・ファンデンベルクのネロ

のメスを加えねばならない。  
ローマは一日にしてならなかつた  
が、その滅亡は外敵を待つまでもな  
く、うちに内臓して いた。

いささか予言者めいた言い方をす  
れば、われわれに國、世界もローマ  
と似ている。そして崩壊の危機をう  
ちに孕んでいる。人よ、日本人よお

聖書のいう新天新地の到来は、現世のものとは全く異なる次元の世界である。われわれの想像を超えた新天・新地の再創造は、神のみ手の内にあり、我らもまた願うところのものである。(復活説に当たり) 脱りを待つのとは、これまたかけ離れている。

聖書は初めてに天地創造の物語を記し、次いで第一の事件失樂園があり、続いて第二の事件に兄弟相せめぐ殺人が記されている。

理由として、当日ネロはローマにいなかつた。また彼が蒐集した財宝を全部消失した。もし彼が火を放つたとすると、これらの安全策を講じたであろうという。

ト・三・十四）と呼びたい。

神は人を造られたことを悔いた（創世記・六・六）とある。紊亂そのものの人類の歴史に、神はノアの洪水に類する何かをもつて、破壊の





ようか、いちごのババロアでもつくろうか・・。庭には梅、クロッカス、水仙、オオイヌフグリなどと、咲く花の色がどんどん増えてきている。☆近くのスーパーまで自転車で買い物に出た。コートを着ないで風を切るのは、久しく忘れていた爽やかさで嬉しい。うれしい気持ちに誘われて、途中、一軒の家の前を通るべく、寄り道をした。小さな住宅街の中に建った家。他の家と一見何も違わないけれど、私にとっては大いに異なっている。実は、その家はもうすぐグループホームとして、子どもたちと一緒に暮らす場となるのだ。私は運よくもそこで暮らすことを許された。施設の守られた空間を飛び出しての

☆四歳の美季の前髪を切った。彼女の髪を切るのはとにかく大変。じつとしていることはまずなくて、前回彼女の髪を切つてくれた小六の珠弥ちゃんも、ずいぶん手こずっていた。この美季ちゃん、実はじつといらないだけでなく、むずかり、切つているところを手で覆つて隠してしまい、終いには泣くのだ。という訳で前回は前髪を切り残させられて、その姿はキタロウと化していたので、今日は前髪を切ることになった。が、こともありますにじつといかない美季と、人の髪を切るなんて全くの初めの私。出来上がりは見るも無残。

のびやかに ふくよかに

X  
筆山 惠理

サと溜まつた洗濯物を洗うことにした。見ればやつぱり肉体労働をしている鷹貴の服だけあって、汚れが手強い。今日は正義の味方の漂白剤に登場してもらつた。説明書には漂白時間は二時間だつたが、漂白すること三時間。その効果の程は、茶色くなつていったホワイトジーンズが本来の姿を取り戻してベランダでなびいている様で表された。真っ白で気持ちがいい。「そうだ、鷹貴を漂白剤につけてやろう!」などとふざけたことを思いつくのも、暖かさのせいだろう。きっと。



「じゃつたからみなし子じやん・・・」  
という彼。そんな彼に、「大丈夫だ  
よ、私がいるじゃない！」と大きな  
声で言ってあげることが出来なかつ  
た。

ないが、いつか、「大丈夫、私がいつも一緒にいるから。」と心から言える存在になりたい。 倉沢 智子



100

八

毎朝、小学生の楽しみだった

代わりに、沈丁花の香り、木蓮の蘆と、次々に新しい楽しみを発見します。

ある日、おんぶしている洋くんが「あっ、雪だよ。見て。」と指さした方をみると、それは散りはじめた梅の花びらでした。

「ホントだ。雪みたいだね。」

一雪みたいー思わず、そう答えてしまった。まう自分の頭と心の頑なさに、はつとさせられてしまいました。

少し前まで、彼には「行ってらっしゃい」という言葉がありませんでした。

「帰ってくる？」

これが彼にとつての挨拶でした。

誰にもさまざまな事情があるものです。ここにいる子どもたちの親御さんにも色々な事情があります。

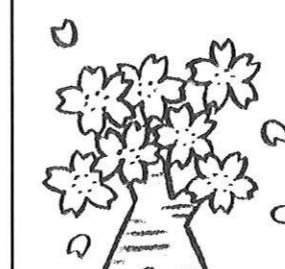
「ママおちごと頑張ってるんだよね」

子どもなりに状況を理解し、一生懸命生活しています。負ってしまった心の傷をその子どもなりに乗り越えようとしています。

パロールとは、施設収容の期間満了前に仮に釈放し、その仮釈放期間中、社会内において指導監督・補導援護するものであり、条件違犯があれば施設に収容するという心理強制によって改善・社会復帰を図る制度である。

プロベーションとは、犯罪者を強制施設に収容することを猶予し、社会内において指導監督・補導援護するものであり、条件違犯があれば強制施設に収容するという心理強制によって改善・社会復帰を図る制度である。

どちらの考え方も、人間を功利的



洋くんは三歳です。彼と話をしてみると、「知らない」ということでの豊かさを考えさせられます。「感じる」アンテナをあちこちに張り巡らせ、瞬間に反応する彼。その一瞬に居合わせないことは、もう取り返しのつかないです。

同時に、その一瞬に居合わせてしまつたことも、後戻りできない、大変なことなのです。

んを踏まないよう、その小さな手を  
ずらします。そして、ふわふわした  
寝顔を眺めながら、この一時を楽し  
みます。楽しみや喜びも、責任の重  
さと表裏一体なのですが、子どもた  
ちの笑顔の重なることを願いつつ、  
新しい年度も励みます。岩崎まり子

うな気がしてならない。  
「健全育成論」や「非行関係論」といった類の本は沢山ある。しかし、どの本もだいたい「家庭環境の改善」だとか「キーパーソンの確立」といった結論に落ち着いている。僕は單純

に「どうしたらキーパーソンになれるか」を知りたかったのに。

最近、皮肉にも法学部のある先生が口癖のように言っていた言葉を思いで出す。

「まずは理論倒れからはじめよう

自分の存在を賭けることなくして、  
小手先で誰かの存在になろうとする  
ことほど虫がいいことはない。少し  
照れ臭いが、今はこんな意味で先生  
の口癖を解釈している。 村上 勇

んを踏まないよう、その小さな手をすらします。そして、ふわふわした寝顔を眺めながら、この一時を楽しめます。楽しみや喜びも、責任の重さと表裏一体なのですが、子どもたちの笑顔の重なることを願いつつ、新しい年度も励みます。岩崎まり子

子どもたちの季節 仙道家

A simple line drawing of a vase containing several cherry blossom flowers. The vase is teardrop-shaped and sits on a small base. The flowers have five petals each.

は一年になろうとしている。振り返つてこの一年“彼女との暮らし”と言える程に心を近くして暮らせただろうか。イエスの言葉は口から出ない。どんな嫌なことがあっても、辛くて女に私は助けられてばかりだつた。本当にそうだったなあ、申し訳なかつたなあと過ぎた時間と思いつつ、彼女を見る。マドベニスワッタカノジョノオカッパ（レイヤーボブって言うんだつけ）の髪は陽を受けてやさしい栗色に光つている。彼女との一人きりの会話がいつもより弾んで、心地よい時が流れる。「ぼーろくせー。だから恵理はショーがないんだよー」などというアクタイも楽しく光る。

☆もうすぐ春が来る。子どもたちとの一瞬一瞬を大事にしなければ、とう思いが心にじむ。

「前髪」は大木凡人さんなみに量が多く、まっすぐでなくガタガタで、しかも短すぎて眉毛が丸見えなのだ。やつぱりおかしい。でも、まあこんなへんてこカットが許されるのも今いちだけ・・と、思うと可愛らしくも見えてくる。そんなことは思つてもいない美季が、私にニッコリ笑いかける。くっきりと出した眉毛が三日月のようでとてもきれい。みんなの笑い者にしちゃつてごめんね。あ！忘れないうちに写真に撮つておこう、この変てこな姿。

☆春の陽気に誘われて鷹貴の、ワンサと溜まつた洗濯物を洗うことにした。見ればやつぱり肉体労働をして登場してもらった。説明書には漂白時間は二時間だったが、漂白すること三時間。その効果の程は、茶色く

は一年になろうとしている。振り返つてこの一年“彼女との暮らし”と言える程に心を近くして暮らせただろうか。イエスの言葉は口から出ない。どんな嫌なことがあっても、辛くて女に私は助けられてばかりだつた。本当にそうだったなあ、申し訳なかつたなあと過ぎた時間と思いつつ、彼女を見る。マドベニスワッタカノジョノオカッパ（レイヤーボブって言うんだつけ）の髪は陽を受けてやさしい栗色に光つている。彼女との一人きりの会話がいつもより弾んで、心地よい時が流れる。「ぼーろくせー。だから恵理はショーがないんだよー」などというアクタイも楽しく光る。

☆もうすぐ春が来る。子どもたちとの一瞬一瞬を大事にしなければ、とう思いが心にじむ。

## 暮らし

菅原 哲男

家族関係にあったはずの力が極端に少なくなつたと言われて久しい。人の関係を取り結ぶために大きな役割を持つものに、「言葉」がある。関係の衰弱は言葉の衰弱と言い換えてもいいと考える。

暮らしとは、複数の人間が同一の場面で協力して生きることとする。複数の人間が暮らし合うためには、言葉によつて結び合わされる関係に拠らなければならぬのである。

イエのなかに氾濫するTVの映像と音声の洪水に溺死しかねない状況はこの国の都市と言わゞ過疎地といわずところを選ばない。一度TVのスイッチを入れると、次から次へ、これでもかこれでもかと念入りに引き付けて放さないようにプログラムされた情報が溢れだし、専業主婦や子どもたちの力ではスイッチを切つて消し去ることが出来ないほどに強力な勢いなのである。その結果、人々はTVの映像と音声を暮らしのBG M（バックグラウンドメディア）にし、今何が映り、何が伝えられているのかなどお構いなしに、まさにその中で暮らしが流れている。

## 『光の子』を読んで下さる方をご紹介下さい！

緊急アピール！

昨年終わり頃から厚生省全体を揺るがし、日本中の心を貧しくさせるような不祥事が発覚しました。これは、家族などの集票力や団体としての圧力の大きな高齢者に関する施策の中で起きたものでした。障害児・者などの保護者や家族も、団体を形成しての活動により条件を整備させてきています。まわらしが流れていた。

☆ 支援の減少

養護施設は孤児院の昔から、票のない子どもは誰からも顧慮されず、家族さえも私たちが探し出す関わりの対象になり、団体を形成し、条件整備の力になつたことはたゞの一度もありません。従つて、この施設のよつて立つ児童福祉法は、戦後五十年一度も改正さず、昭和二十年代前半の時代状況のまま推移しているのです。

☆ 光の子どもの家では

皆さんの熱いご支援により、養護施設光の子どもの家の働きは現状の民間社会事業のあり方へのプロテストの決意も秘めて、十四年前に「子どものための子どもの施設」の建設とその運営、を旗印に設立されたものです。開設反対運動などにより予定より三ヶ月も遅れての開設認可で、その間の

コトバがそれほどの意味を伝えなくなつてしまつた人々の暮らしは、いつも何やら苛立ちながら、何かに飢えているようなザラつきへものす

ごい早さで変容していく。この春、光の子どもの家では三人の中学生が高校を受験して、めでたく合格した。

しかし、受験に備えて合宿までして果たしたものであったが、そこまでの道のりは平坦なものでは決してなかつた。

何よりもまず、受験しようとする者たちの受験に立ち向かう姿勢や意識をつくことに大変なエネルギーが消費されたのである。また、それをつくり確認することが何よりもこの季節の子どもたちへの基本的な関わりである。人は誰でもそうなのだが、とりわけ養護施設の子どもたちは、ここを出た後は、独りぼっちでこの訳の分からぬ社会で生きていかなければならないのである。

それへ立ち向かうことを、状況を含めて伝える最初の機会が進路の決定なのである。中学を卒業すると、社会に出て働いて自立することも可能なかつた。明は中学三年の春に担当者などが立ち会つて、「高校に行かせて下さい」と言つてきた。

「どうして高校へ行きたいのか」という間に、多分職員が示唆していたのであつたが、「勉強するためにです」と、低いがはつきりと答えた。「高校へはここから行きたいのか?」にも「はい」と答える。「それでは、ここから出て働いて自由に生活するよりも、ここで生活することを君は選ぶんだね。」「はい。」

ここにやつて来た時には、親や家族の都合で、出来れば拒否したい施設の生活をさせられたのであつたのだが、今後は、自ら選んでするのだから前向きに学習に取り組み、ふさわしい生活をしていくことを約束して受験への備えを始めたのだった。

「はい。」という言葉は、行動で示すべきであることから、根気よく伝えなければならないのである。言葉は肉体によつて証されるものであることを、伝えることの何と困難な時代なのだろうかと嘆くことしきりの昨今ではある。

能なのである。埼玉県の養護施設では五〇人そそこの中学卒業者の中から三五名が就職していくという。

また、多くのご協力により上級学校への進学もひとつの選択肢に私たちしてきた。その中から自分の意志でそれを選択するのかを突きつけられるのである。十五歳の子どもに、自分の生涯を展望し、そのためには決して選ぶのかなどは至難の業である。

それでも、現実にはそれを避けるわけにはいかない。

明は中学三年の春に担当者などが立ち会つて、「高校に行かせて下さい」と言つてきた。

「これでは君との約束は意味をなさないことになる。だから、君が選ばれたものであつたのが、その中から三五名が就職していった。確認して、少しでもいいから受験への備えをするように、生活のリズムと最低限の学習の時間を整えるよう話をした。その時も彼は「はい。」と答えたが、二日後にはTVにのめり込んで日を過ごしていた。

しかし、受験までに至る彼の取り組みは目を覆うばかりの日々が続いたのである。

とうとう、その日まで一ヶ月を切つてしまつた頃、私はもう一度約束を組みは目を覆うばかりの日々が続いたのである。

組みは目を覆うばかりの日々が続いたのである。

# 1997年度も基準外職員確保のため バザーを行います。 不要品などのご協力をお願いします。

送り先：光の子どもの家バザー実行委員会 気付

日誌抄 = 暮らしの風景 =

1996年 12月 1日 ▶ 1997年 1月 31日

- 12月 幼児5名（幼稚園1名）小学生10名 中学生10名  
高校生5名 在籍総数30名（男16、女14）  
4日 北海道に帰って年老いた祖母と暮らしている川上兄弟、大阪兄弟の祖父母、左姉妹の母を訪ねた。  
5日 北川辺町の増田博氏より新米60キロも。感謝。  
9日 原道小学校と子どもたちの情報を交換する。  
11日 県立養護施設『おおり』より職員2名が来訪。  
14日 青山学院ACFの皆さん4名が来訪。  
15日 東大宮教会山北直美氏より林檎、吉村氏よりみかんを沢山いただく。ありがとうございました。  
20日 大利根町東地区婦人会・愛育班（会長 伍井繁子）がお餅代としてたくさんのお励まし。感謝。  
23日 江森ヘヤーサロンよりお忙しいときなのに、一家をあげて整髪のご奉仕。みんなサッパリときれいに。  
24日 栗橋町タカラブネ店よりクリスマスケーキを沢山。  
○ クリスマスイヴ。杉本家、竹下姉妹もおいでください、讃美と聖書朗読と祈りのキャンドルサーヴィスを捧げる。サンタクロースが子どもたちの夢の中に素敵なプレゼントを。  
25日 クリスマス祝会。家族や学校の先生、教会やお友だちなど子どもたちが直接お世話になっている方々120名ほどをお招きしてクリスマス礼拝としてのペフォーマンス、そしてお祝いの会を。楽しく。

- 26日 この日から県内の子どもたちの家庭訪問。お正月に家族の元へ！一人でも多く、と願い。  
28日 おもちつき。大きくなった子どもたちがたくましい。  
29日 栗橋町八百萬店より野菜を沢山。ありがとう！。  
1997年1月  
1日 元日をここでという子どもたちが増え24名と、全職員で元旦礼拝を捧げお雑煮。今年の抱負を語り合い、お年玉を・・。社会に出ていった者たちも帰ってきて、賑やかで楽しいお正月。  
6日 お正月気分をぶっ飛ばそう会。荒巻さんもおいでになり、手品と腹話術のケンちゃんも。  
7日 町内オオタニよりレタスを沢山。何回も。感謝。  
9日 町内の小学1年の女の子のショートステイ、トワイライトステイを前提にしたインテークワーク。  
12日 町内篠崎敏雄氏よりお米といちごをたくさん。感謝。  
○ トワイライトステイ、ショートステイを開始。グループホーム倉沢家で。（熊谷児相の一時保護扱い）  
25日 栗橋町松井美香氏よりポテトチップスを沢山。感謝。  
27日 町内鈴木幸夫氏よりお米を沢山。感謝。  
31日 高山嬉の母変死の報。急速群馬へ。深夜まで警察で。オレ、とうとう、みなしごになった、と。  
この年も思春期の子どもたちに悩まされ、しかし確実な成長に感動しながら終わり、そして新たな始まり。（くら）

## 反 射 光

☆ついこの間まで枯切っていた紫陽花の緑の芽吹きが鮮やかに目に飛び込んできます。☆三年前に心の抛り所だった父を失った高二の嬉が、今まで病気持ちだったことで少し疎んでもいた母を失いました。疎んでいただけにやりきれなかったらしく、その夜は涙で眠れなかつたと、数日後そつと耳打ちしてきました☆何故、不幸はこうも偏るのだろうか！やります☆そんな思いを振り切るかのように、剣道部で汗し、陸上部で走り続ける毎日です☆中学三年の三人が願っていた高校に合格しました☆  
かう者はいるのだろうかと思い、何とかなるはずだと確信していました☆  
☆「努力」を彼女に見せつけられ反省しきりです☆それにして未だに養護施設からの高校進学は五割ちょっとの状況です。☆そんな貧しさの中でも最善の利益の具体化にもっと力を！決意を新たにします。乞うご支援！  
(哲)